

# 平成25年度 舞鶴市議会意見交換会報告書

## 経済消防班

開催日時	平成25年10月17日(木) 14:00～16:20		
開催場所	舞鶴市役所本館4階 議員協議会室		
テーマ	地域経済について		
対象団体	舞鶴観光協会、東舞鶴商店街連盟、舞鶴商工振興会、 JAにのくに青壮年部、京都府漁業協同組合舞鶴支所、 舞鶴水産流通協同組合、舞鶴市森林組合		
参加人数	12名	傍聴者数	7名
出席議員 (役割分担)	山本 治兵衛(座長)	和佐谷 寛(司会)	伊田 悦子(資料)
	高田 堅一(資料)	松岡 茂長(記録)	松田 弘幸(資料)
内 容	<p><b>【概要】</b> 議長のあいさつ、出席議員の自己紹介に続き、座長から9月定例会について報告した後、各団体から現状等の報告をいただいた上で、質疑応答を通して意見を交換した。</p> <p><b>【意見・要望等】</b></p> <p>《舞鶴観光協会》 昨年、一般社団法人化し、着地型観光に力を入れている。 観光協会は、赤れんがパーク2号棟から5号棟の指定管理者となっている。 指定管理の期限は3年と限られているが、目に見えた交流人口の増加に向けて一歩踏み出したところであり、赤れんがパーク全体の管理を引き受けて運営していくことを望んでいる。</p> <p>《東舞鶴商店街連盟》 現在の厳しい状況を、ドラスティックに変える方法として話をしているのは、自分たちも変わらなければならないが、街を変えるということ。街なかに人が住んでもらえるような方法を考えるのが一番ではないかと思っている。お金の使い方としては、街なかの社会資本を充実するのが良い方法ではないかと思う。 大門のビルセンターの建て替えは、去年になって説明を受けたが、議論が始まってから十数年かかっている。行政の動きは、我々が考えているよりはるかに遅い。 大型店は、スクラップアンドビルドを繰り返しており、儲からなくなれば撤退する。一瞬の華やかさではなく、地道な発展を目指す方向を考えてもらいたい。</p> <p>《舞鶴商工振興会》 「街にスクラム、夢にトライ」を目標に、商店街において様々な催しなどに取り組んでいるが、福知山の件以降、露店に対する規制が厳しい。もう少し門戸を広げてもらわないと、露店のない祭りなどは考えられない。 商店街というよりも、まちそのものが高齢化しているので、高齢者対策が必要。</p> <p>《JAにのくに青壮年部舞鶴支部》 中山間地の農地を守っていくためには、新規就農だけでなく、後継ぎ農家を増やしていく地道な活動を続けていくことが重要である。 重要な売り先である公設市場が、経営的に厳しい状態であると聞くと、地産地消の大きな柱でもあるので、市としても守ってほしい。 後継ぎや新規就農を増やしていくことは、地域にとっても市にとってもメリットがあると思うので、土地や住居など様々な支援をお願いしたい。 万願寺甘とう以外の作物は、市場への出荷や、部分的に直売所で販売するが、規模は小さい。直売所の充実は、個人では難しいので、まとまった意見</p>		

を農家から上げて、行政に支援してもらいたい。  
とれとれセンターは集客力があるので、その近くにハウスを建てるなどして、観光農園としての振興も可能ではないか、などの意見がある。例えば貯木場の跡地など。

《京都府漁業協同組合舞鶴支所》  
大型定置網は6経営体、小型定置網は30経営体ある。  
底引き網は現在5隻であるが、年々減少している。主な原因は燃料の高騰であり、経費の10%ほどが燃料費であったのに対し、現在は35%から40%までその割合が上がってきている。  
その他、個人の経営体で磯根200経営体、釣り・はえ縄100経営体、マガキの養殖50経営体、とり貝・岩ガキの養殖30経営体などが漁業を行っている。  
1経営体に対して支援するのは難しいと思うが、網を新しくしなければ漁獲量も確保できない。1つ新調するのにも4千万円～5千万円かかる。台風被害に際しては補助もあるが、更新の際など通常時にも補助制度があればありがたい。

《舞鶴水産流通協同組合》  
鮮魚の卸売販売、小売、水産加工業など、幅広く組合員が所属している。ピーク時は178名いたが、現在は89名で、平均年齢は61.2歳と高齢化が進んでいる。  
舞鶴にとっては、水産業が大きな比重を占め、観光の面からも水産物は集客の効果があり、活性化の要素になると思うので、今後とも支援をお願いしたい。  
学校給食に舞鶴の水産物を利用してもらい、舞鶴の魚がおいしいということ、小中学生が実感し、他の地へ行っても舞鶴は魚のおいしいところと言ってもらえるような教育に期待したい。

《舞鶴市森林組合》  
森林は、木材の供給だけでなく、国土の保全、水源の涵養、地球温暖化防止など、公益的機能を有している。いつでも案内するので、一度山に来て現状を見てほしい。  
立派な材木を、舞鶴の中で公共事業に利用したり、木造住宅のモデルハウスを官民協力してつくるなどして、舞鶴産材を消費していく取り組みをお願いしたい。  
散策道などをつくり、気軽に行ける山をつくってもらい、人が山に入ることで、有害鳥獣被害を減らすことに繋がるのではないかと思う。  
森林所有者から、いらないので山をもらってほしいという相談もある。これを公有化するなどを考えてもらえば手入れもできる。  
内発型で地域に根差した産業を活性化させることにより雇用を生むほうが望ましいと思う。  
今回の意見交換会は、時間が短いと思うので、次回やる場合は、もう少し時間が欲しい。

舞鶴市議会議長 尾関善之 様

平成25年11月15日

舞鶴市議会意見交換会実施要領第9項（1）により、報告書を提出します。

経済消防班座長 山本 治兵衛